

2009.7.27



# 医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
医療教育開発センター

## 1 巻頭言

## 2 移転完了のお知らせ

## 3 副センター長の紹介

## 4 取組紹介

●特集 ～新しい臨床技能学習施設～

- ・ 利用方法
- ・ 管理物品一覧
- ・ 平面図

## 5 平成21年度の主な活動予定

## 1 巻頭言

### ご挨拶

医療教育開発センター長 赤池 雅史



この度、平成21年4月1日付けで医療教育開発センター長に就任いたしましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

蔵本地区には、医学・歯学・薬学・栄養学・保健学に跨る医療系3学部7学科と5大学院があり、大病院と疾患酵素学研究センター、疾患ゲノム研究センターを加え、生命科学の一大教育・研究拠点を形成しています。医療教育開発センターは、この特徴を活かし、玉置俊晃初代センター長、安井夏生第2代センター長の下で、分野の枠組みを超えて、患者中心の全人的医療が実践できる多職種医療人や世界最高水準の生命科学研究者の育成教育支援に努めてまいりました。また、平成21年5月には最終移転を完了し、スキルスラボを含め全国有数の充実した教育環境が整いました。

臨床教育としては、スキルスラボ運営や模擬患者育成に取り組んできましたが、最近では、学外病院の医師、看護師対象の講習会や高校生対象のオープンキャンパスでも活用が広がっています。今後はスキルスラボ専任インストラクターによる支援強化、地域ボランティアによる教育参加の体系化ならびに職種間連携教育(IPE)の推進によって、安全な医療の提供とチーム医療が実践できる医療人育成を目指したいと考えております。大学院教育としては、英語特別コース/統合医療学際教育プログラムや共通カリキュラムにおけるeラーニングの運営、授業評価、リトリート開催等に取り組んできました。今後は、組織横断型教育クラスターの形成や大学院教育GPの獲得、月例セミナー開催等により、領域横断的研究を自立的に遂行できる優れた生命科学研究者の養成支援をより一層行う必要があります。

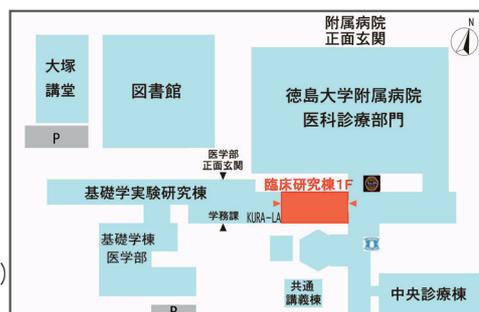
医療教育開発センターは、卒前・卒後・生涯教育の「縦糸」と複数の医療系教育組織の「横糸」を有機的に結び支援することにより、地域に貢献すると同時に世界に通じる医療人の育成を目指しています。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 2 移転完了のお知らせ

当センターならびに臨床技能学習施設(スキルスラボ)は、平成21年5月7日に臨床研究棟1階へ移転いたしました。

南側に教員室・事務室、北側にはスキルス・ラボ1・2・3・4を配置しました。

(平面図・利用方法等、詳細は3-4ページ)



### 3 副センター長の紹介 ●●●



#### 寺嶋 吉保 (医療教育開発センター 専任准教授)

HBS 研究部が発足した 2004 年に当センターの専任教員となり早くも 5 年が経過しました。医療系 3 学部 5 大学院や卒後研修など蔵本キャンパスの共通課題に対応するために、e-learning、授業評価、スキルスラボ、模擬患者などの教育資源を拡充して、保育所実習を含む「ヒューマンコミュニケーション」授業などを行ってきました。

来年 5 月までの任期最後の 1 年を、総合医療系キャンパスの特徴を活かす IPE (inter-professional education: 専門職間連携教育) とスキルスラボを活かした simulation 教育の一層の推進に努めたいと思います。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



#### 羽地 達次 (口腔科学教育部 教授) —海外留学の勧め—

私は 20 年以上前にニューヨークに住んでいました。日本に職を得た後も 2~3 か月間アメリカで研究する機会があり、何回か渡米しています。学会・観光等で外国に行っても、その国の文化を経験することができますが、断片的であり、本当の文化を体験することはできません。実際に住んで異文化を経験することが必要です。海外の研究環境が日本より優れているとは思いませんが、2~3 年間外国に住んで、現地の人達または留学してきた外国の研究者と同じ釜の飯を食べて親交を深めることがこれからの研究者には必要です。欧米のみならず、アジア、アフリカの国・地域に留学しても必ず得るものがあります。

現在大学院で研究している諸君、これから大学院で研究してみたいと思っている諸君、自分の人生設計の中で海外留学を取り入れてみて下さい。きっと人生のプラスになります。



#### 徳村 彰 (薬科学教育部 教授)

薬科学教育部は、創薬科学と医療薬学の 2 分野で活躍できる人材の養成をそれぞれ目標に掲げる創薬科学専攻と医療生命薬学専攻を設置しており、両者が協力及び競争しながら均衡ある発展をとげてきました。しかし、平成 18 年の薬学部 6 年制の発足に伴い、本学薬学部薬学科 (6 年制) の 1 期生は 4 年生へと進学し、本年度末に CBT と OSCE を受講する運びとなっております。一方、4 年制の創製薬学科の学生は最終年度に進級し、大部分が新大学院教育プログラムを持つ改組創薬科学専攻博士前期課程の入学試験を受ける予定となっております。2 年後には、同専攻の博士後期課程の改組や 6 年制学科と連動する 4 年制大学院の新設が予定されており、教員の知恵を結集して対応していく必要があります。本学 HBS 研究部では、医療教育開発センターを中心として学部横断型医療人育成プログラムがすでに数多く実施されており、今後の薬学教育の充実にも大きな役割を果たすと期待されます。今回、薬科学教育部を代表して本センターの一員に加わることになりました。本センターの運営や活動に寄与できるよう努力したいと考えております。

2 年後には、同専攻の博士後期課程の改組や 6 年制学科と連動する 4 年制大学院の新設が予定されており、教員の知恵を結集して対応していく必要があります。本学 HBS 研究部では、医療教育開発センターを中心として学部横断型医療人育成プログラムがすでに数多く実施されており、今後の薬学教育の充実にも大きな役割を果たすと期待されます。今回、薬科学教育部を代表して本センターの一員に加わることになりました。本センターの運営や活動に寄与できるよう努力したいと考えております。



#### 寺尾 純二 (栄養生命科学教育部 教授)

昨年度より引き続き、栄養生命科学教育部を代表して副センター長を担当いたします。よろしくお願いいたします。ご存じのとおり我が国の大学院教育には多くの問題が山積しておりますが、栄養生命科学教育部においては、博士後期課程進学希望者の減少と社会人入学希望者の増加がみられ、その対応に追われている現状です。さらには、博士後期課程定員の減少や教育プログラムの多様化などが目前にあり、その中で大学院教育の質をいかにして向上させるかが問われています。医療教育開発センターを中心にして蔵本キャンパスの各教育部の連携を深めていくことが、栄養生命科学教育部にとっても重要であり、センター活動の充実化に努めてまいります。

センター活動の充実化に努めてまいります。



#### 小野 恒子 (保健科学教育部 教授)

保健科学教育部は発足以来 4 年目で、博士後期課程が学年進行中の新しい大学院です。定員は現在 1 学年博士前期課程 14 名博士後期課程 5 名ですが、毎年志願者数が増加し、現在の在籍者数は 58 名となっています。特に近年の医療技術の高度化専門化に伴って、医療技術教育は専修学校から大半が大学における教育へと高学歴化するとともに、社会人学生として先端的研究と技術の習得を目指した医療人が増加してきました。また今年度から社会的要請の多い、がん専門看護師や医学物理士また養護教諭の専修免許を取得するためのカリキュラムを導入しました。このような現状から、より多くの優れた医療技術者と教育研究者を育成するために定員の増員を計画しています。

施設環境面においては、昨年度は保健学 C 棟が完成し、また今年度は老朽化した保健学 B 棟の改修が 6 月から始まり年内には完成予定です。しかし教育研究のより一層の充実には不可欠な予算面においてはかなり厳しい状況にありますので、教員の教育研究活動をさらに活性化し、外部資金の獲得が課題であると考えています。

# 4 取組紹介

## 特集

### ■新しい臨床技能学習施設(Clinical Skills Lab.: CSL 通称 スキルス・ラボ)

医療教育開発センター 副センター長(専任) 寺嶋吉保

徳島大学のスキルス・ラボは、今年5月に改修を終えた臨床研究A棟1階北側に移転して330㎡と広くなり、隣接の医学部第3&第4会議室(各50㎡)も、廊下側の壁も可動として、一体的な広い研修空間として活用できるように設計しました。

本学のCSLの特徴は、医学部から提供されたスペースに各学部等の備品を持ち寄り、医療教育開発センターが運営を依頼され、医歯薬3学部や附属病院や地域の病院などに広く利用可能である点です。このため、ヘルスバイオサイエンス研究部の玄関に近く、附属病院からも利用しやすい場所に開設されています。

次頁のように総額6000万円以上の様々な模型やシミュレーション機器を有し、看護職のインストラクター(非常勤:週10時間勤務)2名がCSLでの教育研修のお手伝いをしています。この2名が機器の準備や使い方なども含めて協力できる体制が整った2008年7月からは、利用が大きく増えました。

採血や導尿、手洗い、縫合、聴診(心音、呼吸音)、蘇生救命などの基本的な技の練習器材も充実しています。さらに、研修医や「がんプロ」大学院生用の機材として、腹腔鏡手術操作や中心静脈穿刺、腰椎穿刺、胸腔穿刺などの練習機材があり、またDVD教材や学習用のコンピューターもあり貸出もします。個人・グループ・診療科単位などでご利用を検討ください。

医療の質と安全の向上が強く求められています。患者さんを危険に晒すことなく、確かな技能を持つ職員を育てることが患者さんの評価に直結します。また、学習者(医療系学生や新人職員など)や指導者・教員にも、安心して失敗から学ぶことができる学習環境を提供することが、働きやすい職場として求人や離職防止にも有効です。

海外では、十億円以上を投資した素晴らしい設備が多く作られています。我が国でも数年前から整備が始まり、全国の医療系大学や教育研修病院で専任教職員を配置した大きなスキルス・ラボ施設整備も進められています。現時点では本学のスキルス・ラボは空間、備品、人材の点で、比較的充実した施設といえます。本学CSLは、4つのユニット(CSL1~4)と器具室から構成されています。

CSL1:心音と呼吸音の聴診シミュレーター(各2台)とフィジカルアセスメント用のシミュレーター1台があり、可動壁で仕切ることが可能。

CSL2:手術用手洗いと病棟手洗いができるシンク(4人同時に可能)が設置され、20名以上の採血・静脈注射の実習が可能。

CSL3:模擬患者ボランティアの待機用の部屋で、10名前後の会議も可能。

CSL4:前室と6つの模擬診察室があり、診察の実習や服薬指導などにも利用可能。器具室:救急蘇生の訓練用の器材など多くのシミュレーターを収納しています。

#### <医学部会議室>

第3会議室は、12名程度の会議室です。東側コーナーには酸素と吸引の模擬配管と模擬病室(2床分)をセットしています。第4会議室は、30名程度の会議室です。天井プロジェクターとスクリーン、移動式スピーカーの設備があり、小講義室としても利用可能です。第3会議室との間の可動壁を開くと、50名の会議が可能です。また第3&第4会議室の廊下側の可動式壁を開くと、開放的な広い空間になります。

## 利用方法

- ◇対象: 本学医療系学生・研修医・教職員・その他センター長が認めた者
- ◇利用の流れ

1. 使用申込書を提出(原則1週間前)。
2. 物品および使用する部屋の鍵受取り⇒利用⇒返却⇒使用報告書の提出  
使用する部屋の鍵の受け渡し: 平日9:00~16:00  
(休日・16時以降におよぶ利用は事前にご相談下さい。)

<http://healthbio.basic.med.tokushima-u.ac.jp/jp/medc/skilllab.html>



CSL1:呼吸音・心電音の実習



CSL2:手洗いシンクと採血シミュレーター



第3会議室 模擬病室



第3・4会議室廊下側を開放した研修例

## インストラクターの紹介



特任助教 福富美紀 特任助教 高井恵美

### スキルス・ラボ管理物品一覧

#### A. 診察技能の訓練用

- 1) 聴診シミュレーター 心音+呼吸音 (各2)
- 2) 看護身体評価シミュレーター (1)
- 3) 眼底診察用模型 (3)
- 4) 耳診察用模型 (2)
- 5) 乳腺診察 (3)
- 6) 直腸診察 (2)
- 7) 骨盤診察模型 (男女各3) 直腸診+内診+下腹部触診
- 8) 診察器具 コードレス聴診器 (3セット)、心電図12誘導 (1) 聴診器、血圧計、耳鏡、眼底鏡、診察器具セット



#### B. 基本手技の訓練用

- 1) 手洗いシンク (病棟+手術) 4+手洗いチェッカー (3)
- 2) 採血&静脈注射モデル (上腕、手背、小児)
- 3) 動脈採血モデル (1)
- 4) 筋肉注射モデル 肩+臀部+肩装型 (各1)
- 5) 導尿&膀胱カテ留置モデル (男3、女2)
- 6) 気道吸引モデル (4)
- 7) 縫合練習キット (20) +指導者用CD教材
- 8) 中心静脈穿刺トレーナー (4)
- 9) 腰椎穿刺トレーナー (3)
- 10) 小児ケアモデル (経鼻胃管、胃瘦など) +多目的新生児人形  
その他) 輸液ポンプ (2) 点滴台 (7)、腕置き台 (6)



#### C. 救急手技の訓練用

- 1) ACLS トレーナー「ハートシム」(2)
- 2) BLS トレーナー「レサシアン」(5)
- 3) AED トレーニング人形 (3) + AED 訓練機 (4)
- 4) 乳児 ALS トレーナー (1)
- 5) 小児 BLS トレーナー (4体)
- 6) 新生児挿管モデル+未熟児モデル (各1)
- 7) 誤嚥気道閉塞モデル (1)
- 8) 気道挿管練習モデル (1式)、AMBUバック (3)
- 9) 外傷セット
  - 外傷モデル+外傷モジュール (1式)
  - 外傷メイキャップキット (1式)



#### D. 模擬病室

ベッド (2) +酸素吸引ユニット (1) +ナースコール (1)

#### E. 「がんプロ養成」コーナー

- 1) 腹腔鏡手術訓練セット (2)
- 2) 胸腔鏡手術 (VATS) トレーナー (1)
- 3) 気管切開訓練用 (1)
- 4) 気胸トレーナー (1)
- 5) 胸腔ドレーナージ (1)
- 6) 自己学習用PC (2) + DVD教材 (多数)



#### F. その他

録画編集システム (カメラ+編集ソフト+業務用三脚など) プロジェクター (3) +スクリーン (1) マイク&スピーカー (1) 50インチモニター (1) 製本機 (1) 大型プリンター (1) (医学部備品: 設置予定) ノートPC (10) 大型解剖図譜 (多数) +解剖模型 (各種)

### スキルス・ラボ平面図

スキルス・ラボ 1A (28)	スキルス・ラボ 1B (28)	スキルス・ラボ 2 (57)	器具室 (28)	スキルス・ラボ 3 (28)	スキルス・ラボ 4 演習室1 (20) 演習室2 (7) 演習室3 (7) 演習室4 (7) 演習室5 (7) 演習室6 (11) 前室 (35)
第四会議室 (52)	第三会議室 (48)	医療教育開発センター 事務室 (50)	教員室 (25)		

( )内は面積:m<sup>2</sup>

### シミュレーション教育ワークショップFD

10月23日～25日 徳島大学CSLを会場に、全国対象の講習会を開催します。CSLやシミュレーターを十分活用した教育研修には、特有のノウハウが必要です。CSL教育の先進校である慶応義塾大学と東京医大からインストラクターを招き、効果的なシミュレーション教育の具体的な手法を学びます。

## 5 平成21年度の主な活動予定 ●●●

### ■大学院リトリート 第5回 Tokushima Bioscience Retreat

と き:平成21年9月17日(木)～19日(土)  
と ころ:香川県 リゾートホテルオリビアン小豆島

本年も学長裁量経費の支援を得て、大学院リトリートの開催を行うことが決定しました。現在、今年の世話人役である中屋 豊先生(栄養生命科学)を中心に準備を進めているところです。例年に増して素晴らしい交流が行われることを期待しています。

#### 特別講演講師 寒川賢治先生



国立循環器病センター研究所 所長 (略歴)  
1948年徳島県生まれ。  
大阪大学大学院理学研究科博士課程修了  
宮崎医科大学医学部助教授、京都大学医学部教授など歴任、2007年から現職。



### ■その他

- 7月28日 看護職員確保モデル事業・実務研修
- 8月5日 徳島文理高校 医学体験(スキルス・ラボ)研修
- 8月7日 徳島県高校生 医学体験(スキルス・ラボ)研修
- 9月30日 「チーム医療入門」 蔵本合同1年生ワークショップ
- 10月23日～25日 シミュレーション教育ワークショップ(FD)
- 11月26日 第7回CV(中心静脈穿刺)講習会

### 医療教育開発センターニューズレター Vol.4 2009.7.27

編集・発行 徳島大学大学院HBS研究部医療教育開発センター  
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

TEL:088-633-9104 / FAX:088-633-9105  
ホームページ: <http://healthbio.basic.med.tokushima-u.ac.jp/jp/medc.html>